

損じハガキ三、六九六枚の回収が図れ、一六一、二二九円を日本ユネスコ連盟に贈る事ができ、カンボジアに二校の学校が建設されたと報告を受けております。当会としても世界中の学校に通えない子供たちの為に事業を推進してまいる所存ですので、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻、ご支援いただけますようお願い申し上げます。



## 沼田ユネスコ協会

### 一冊贈呈、その効果は

— ユネスコスクール —

「従来の形式に捕われることなく、斬新で貴ユ協の特色ある内容を期待しております。」と言う執筆依頼を受けました。従来形式とは、どんな形式。それは、斬

新性、特色性等々考えて見ましたが、継続は力なりを信じ邁進のみの当ユ協にとっては、常に新しく珍しい活動なし。他ユ協と比べて優れている活動もなしであるから依頼ノ一にしようと思いましたが、低迷の結果、執筆責任優先に落ち着きました。

昨年、十二月四日、市小・中学校長会で、ユネスコスクール説明の機会が得られました。小林会長挨拶後、僅かの時間でした。写真の一冊を各校長に贈呈し、有効活用を訴えるだけでした。協会としては、次の説明を通し、働きかけを予定に入れていましたが、残念ながら出来ませんでした。

①ユネスコスクールの拡大は、これからのユネスコ協会の大きいなる発展のために欠かせないものであること。

②問答、事例、資料集と言った編集の工夫が見られること。

③発行日、二〇一三・五・二五が示すように、これまでの出版物の中では、新しさが出ていて、内容等大変理解しやすくなっていること。

以上を加えたかったです。具体例を挙げながら…。

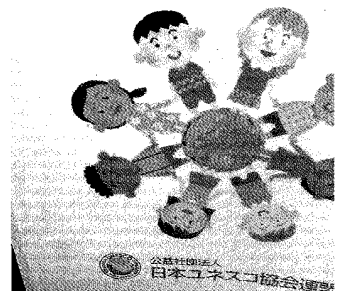
贈呈後の活用の結果は、直接学校訪問を行い確認の上立って、更なる働きかけを準備していくつもりです。午年にあやかりうまくいくでしょうか。

これからのユネスコ協会の大きいなる発展のために。

〈文責・下田〉

これからのユネスコ協会の大きいなる

## ユネスコスクールの質問・事例・10



## 館林ユネスコ協会

当協会では、自然界の雄大な営みが垣間見られる下仁田のジオパークをサマースクールの研修先とし、今回で四回目となりました。下仁田は日本構造線の末端で地層地質が複雑な場所です。研修のプログラムはジオパークの担当者が概略を決めてくれ、内容は町役場屋上から周囲の山々の眺望、青岩公園での石拾い分別、下仁田自然学校での展示物の見学、現地では川沿いに露呈している岩肌の見学となっております。石拾い分別では下仁田の地層地質の複雑さがわかります。ここでは色や肌合いが異なる十種類以上の石を拾うことができ、図鑑を見ながらそれらを分類するわけですが、子供たちにとってはちょっと難しいようです。館林近くの川原と違い、水が清明で石がたくさんあるので、川に向かっての石投げや川に入り楽しむ姿を見ると、子供は自然に親しむことが似合うものですが、水辺のことなので事故でもあったらと心配する瞬間でもあります。自然学校では近

郊で採取される鉱石や化石、下仁田の地層や日本列島の成立過程のパネルが掲示されています。現地では地球が生きている証となる根なし山の話、川原に露呈している断層や岩肌に残されている傷の痕跡等を見学しますが、子供たちが興味を示してくれるのかと心配になります。担当者は研修を通して、地球の歴史は何億年単位で形成されていて、私たちの生きている時間と全く違うスケールの営みをしていることを説明してくれます。

私たちはより良い生活を求めるがために、長い時間をかけ造られた自然に手を加えて変えています。自然の成り立ちを子供たちが少しでも理解し、大事にそれらを守り共存することが大切であることを感じてくれる一助となればと思いいサマースクールを実施しています。

